

平成 21 年を川柳で振り返る

北野寿囲碁同好会 安原 明

今年も半月を残すのみとなった。月日の経つのが早く感じられるのは歳のせいなのだろうか。子供の頃は長く感じられた 1 年が、生活に変化が少ないためか、スローライフで一つのことをやるのに時間がかかるためかと、理由を考えているが、結論は出そうもない。恒例により今年の川柳の中から月に 1 つを選び 1 年をふり返ってみる。共感して頂けるものがあれば幸いです。

- 1 月 新成人 皆茶髪にて 生まれたり
- 2 月 2 百年経ど 人間進化せず(ダーウィン生誕 200 年)
- 3 月 マラソンや 都会の路に 花咲かせ(東京マラソン)
- 4 月 不景気が 大型連休膨らませ
- 5 月 千円で 渋滞も買い ドライブへ(高速道路料金)
- 6 月 巨大でも 企業の寿命 1 世紀(GM)
- 7 月 国産の 優勝者出ず 丸 3 年(大相撲)
- 8 月 トビウオの 落ちて戦後も 遥かなり(古橋逝く)
- 9 月 敬老の日も 連休に埋もれぬ
- 10 月 期待感 先行しての 平和賞(オバマ)
- 11 月 イチローに 負けじと秀喜 旗を立て(WS 勝利と MVP)
- 12 月 母よりの 厚き支援に アイム・ソーリー
- 番外 中年の星 イチローの 安打かな 若年の星は 石川・井山なり



(碁楽連だより 新年号 第 221 号 2010 年 1 月 1 日)